

問題を持ち帰ることで、

お客様も自分も冷静に考えられる。

割り切れない時もあるけど、

時の偉大さを知るとは大事だよ。



the pioneer 咲く人

匠の技を伝え学び、常に新しい道を切り開く事で笑顔の花を咲かせる開拓者-Pioneer-。今と未来のTSSを開拓する人物にせまるこのコーナー。第13号は、小島幸雄氏に登場してもらう。

四十年に渡るTSSとの関係

東京都品川区生まれの小島。青物横丁と言う横丁で育ち、近くに町工場が多かったこともあり、職人と言う存在を非常に身近に感じて育った。そんな彼が十五歳になり、将来と向き合う時に選んだ道は、やはりモノづくりの道。父親から『大学にはとても』と言われていたことから、当時はまだ国内に二校しかなかった工業高等専門学校へ入学した。卒業後、■■■■に入社。最初はゲージの設計ばかりだったが、その後治具、金型、自動機を順に担当。順序良く仕事を覚えられる環境が有り難かったと言う。また、TSSとの関係もこの頃からで、小島が設計したものを、旧東京精研社で作っていた。

「当時は、私の設計でTSSにご迷惑を(苦笑)。その後、定年退職する時に現田中会長が『それなら、うちに来ないか?』って。もう四十年の付き合いだ!こんな長くなると思つてなかったけど(笑)お世話になります!」

三本の柱

TSS入社後、ほとんどの時間を新商品開発チームの一員としてひた走ってきた小島。彼はこの部門を、設備製造・コネクタ生産の二つの柱が低迷した時に、少しでも支えになればと考えている。

「うちの本流である設備とコネクタは、両方電子部品の分野に属しているから、その業界に変化があったら、どちらの影響を受けるよね。そんな時、影響を受けない全く別分野の事業があれば、会社を支えられるでしょ。『理想は柱が五本』ってよく言うけど…少なくとも三

本目の柱として、支える側になる様にと思っているのですが…なかなか柱が立たず申し訳ありません!」

複数の視点を養う

原動力としての開発

会社の本流に携わる者も、そうでない者も、会社における自身の存在意義を疑う瞬間が、必ずある。その疑いを打ち消す一つの助けとなるのが、仕事の意味を見い出すことだ。前職時代から様々な分野に関わってきた小島は、この新商品開発を、視野を広げ継続力を養う手段としても活用している。

「二つの物事に携わるっていうのは、視点を複数持つことと同義なんだよ。つまり、面白く考える力が付くんだね。そういう所から出た案が、設備の分野で活かせることもある。新商品開発は、私にとつてそういう意味を持つことでもあつて、本業にも役立てばと思つています。」

「やっぱり、一から作るの大変で、時間のかかる作業だと思つて。でも、一発で物事が動く方が稀でしょ…技術者は、『しつこさ』が必要。諦めないこと!」

時の偉大さを知ることが大切

落ち込んだり、難題に直面した時に、『深く考えすぎない』というのは、過去のパイオニア達も紹介した回復法。もちろん小島も例に漏れないが、さらに、時の流れが持つ力を知ること大切と語る。「長い経験から思うんだけど、夜考えたことは、次の日の朝、ひっくり返ることが多い(笑)。どうしても考え込んでしまうでしょ、夜は。夕方にお客様からクレームが入っても、一旦持ち帰って、じっくり

温厚な人柄で、結論を急がない熟慮型。人を育てようという熱意と、黙ってフォローしてくれる優しさを兼ね備える。社内屈指のアイデアマンでもあり、数々の実績を持っている。また、歌がとても上手で、NECのカラオケ大会で優勝した経験のある実力者。泳ぎたいやき君シャンソンバージョンは、一聴の価値あり!

(情報提供 中田さん)



小島 幸雄
Yukio Kojima

考えてみる。辛いけど、次の日の展開が変わることは、大いにあるからね。」

「問題があつた時、早く吐き出したくなるのはお客様も同じ。だけど持ち帰ることで、自分もお客様も冷静に考える時間ができる。そうすれば、妙案を思いついたり、相手の気持ちが変わったり、お互いにとつて良い方向に進むものだよ。これが、時の偉大さ!なかなか割り切れない場合もあるけど、これを知っておくことは大事だよ。」

「粘りが色濃く出た今回。最後に、心に刻み込まれていると言う、NEC元会長 関本氏の言葉を伺った。

『スピードは力なり、継続は強さなり』ってね。現代人は、スピード(瞬発力)と、それを持続させる心の強さ(持続力)の二つを持つ必要があるということ。そんな力を、生涯養っていかれたらと思うね。」(敬称略)